

第68回車座集会意見交換内容（麻生区・まちづくり局）

- 1 開催日時 令和6年10月26日（土） 午前10時00分から午後0時00分まで
- 2 場 所 昭和音楽大学 北校舎5階 ラ・サーラ・スカラ
- 3 参加者等 参加者16名、傍聴者14名 合計30名

<開会>

司会：お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから第68回車座集会を開会いたします。

私は本日の司会を務めます麻生区役所企画課の市川と申します。よろしくお願いいたします。

本日の車座集会は、新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりについて～「つながり」を生かしたまちづくり～をテーマに、参加者の皆様方と市長で意見交換を行っていただきます。

それでは、行政からの出席者をご紹介します。

福田紀彦川崎市長でございます。

市長：おはようございます。よろしくお願いいたします。

司会：山本奈保美麻生区長でございます。

区長：おはようございます。今日はよろしくお願いいたします。

司会：宮崎伸哉まちづくり局長でございます。

局長：よろしくお願いいたします。

司会：初めに、福田市長からご挨拶を申し上げます。市長、よろしくお願いいたします。

<市長挨拶>

市長：皆さん、おはようございます。

今、おじぎをしたら頭がぶつかりそうになるぐらい近いから、すごいこじんまりとした感じで、アットホームでいいなと思います。

今日は、土曜日の午前中ですが、車座集会にご参加いただきまして本当にありがとうございます。まずは、この会場をお貸しいただきました昭和音大さんに、心から感謝申し上げたいと思います。急に衆議院選挙になってしまったので、もともと予定していた場所が使えないということになりまして、（昭和音楽大学の）ご協力に感謝申し上げたいと思います。

今日のテーマは、新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりについてということですが、私は麻生区で小学校、中学校時代を過ごし、高校、大学は違ったんですが、また戻ってきて、30歳、結婚するまで麻生区に住んでいましたので、何というか、新百合ヶ丘、あるいは百合ヶ丘におり立ちますと、一番ホームな感じがするという、そういう場所です。

先ほど区長と話をしていて、新百合ヶ丘駅ができてちょうど今年50年ということで、私は今52歳なので、できたときのことは覚えていませんが、まだ新百合ヶ丘の駅が全く、更地だったようなところを覚えています。それこそ最初に、小学校の高学年とかですかね、初めて行ったデートらしきものは、新百合ヶ丘駅の「あ？めいず」という巨大な迷路があったのを覚えている方はいらっしゃると思いますか。あ

そこにデートもどきに行ったのをすごく懐かしく覚えていますけど、あのときは本当に何もなかったという感じで、町並みはものすごく変わりました。でも、50年経って、まちも大分、いろいろな課題も出てきているなということなので、皆さん活動されていて、いろいろつながりづくりをやっていただいていると思いますし、これからの50年という、さらにまちを新しくつくっていくためにどんなことが必要なんだろうということを、それぞれの立場で率直に議論できればと思っています。

今日は、中学生も大学生もいらっしゃるということで、若い人たちの意見も聴けるというのはとてもうれしいです。どうぞよろしくお願いいたします。

<参加者紹介>

司会：市長、ありがとうございました。

続きまして、本日ご参加いただいている皆様をご紹介します。お時間の関係で、簡単にご紹介にはなりますが、お名前をお呼びしますので、手を挙げていただきますよう、お願いいたします。

麻生中学校2年生、植村悠吾様、上井優芽様、神崎明里様、廣瀬香澄様でございます。

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムの岩倉宏司様でございます。

リンクママの永井和美様、大村純子様でございます。

新百合丘オーパ館長の山本克彦様でございます。

イオンスタイル新百合ヶ丘、人事総務課長の鈴木規弘様でございます。

新百合ヶ丘商店会会長の小島龍彦様でございます。

長年、新百合ヶ丘駅周辺にお住まいで、緑ヶ丘自治会会長の岩田晴夫様でございます。

同じく、長年、新百合ヶ丘駅周辺にお住まいで、一般財団法人川崎新都心街づくり財団役員の鈴木友由様でございます。

新百合山手公園管理運営協議会の小松崎憲様でございます。

麻生区にお住まいで、大学生の俵和香奈様、富長勇哉様、妹尾珠里様でございます。

皆様、ありがとうございました。改めて本日はよろしくお願いいたします。

<川崎市の説明>

司会：続きまして、まちづくり局地域整備推進課長の若狭からイントロダクションとして「新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりの概要」についてご説明させていただきます。準備いたしますのでしばらくお待ちください。

また、このお時間は福田市長、山本区長、宮崎局長は客席側に移動させていただきます。福田市長、山本区長、宮崎局長、ご移動をお願いいたします。

準備が整いましたので、早速説明を始めさせていただきます。若狭課長、お願いいたします。

課長：改めまして、まちづくり局地域整備推進課の若狭と申します。どうぞよろしくお願いいたします。少し上がっておりますけれども、よろしくお願いいたします。

私からは、後ほどの市長との意見交換に先立って、新百合ヶ丘のまちづくりについて少しだけお話しさせていただきます。スクリーンと一緒にお手元の資料にも同じものを載せてありますので、見やすいほうをご覧ください。

初めに、新百合ヶ丘のこれまでのまちづくりです。

スクリーンは、新百合ヶ丘駅開業時の1974年から2024年、現在までの変遷です。先ほど市長のお話にもありましたけれども、今年で駅開業から50年を迎えます。こちらは駅ができる前と駅開設当時の写真です。小田急多摩線が分岐する駅として新百合ヶ丘駅が開設されました。このときはまだ今

の面影はなく、周りも森林のままですけれども、地元地権者の皆さんのご尽力によって土地区画整理事業が行われます。

スクリーンは事業完了時の状況ですけれども、道路や交通広場などが整備されて、現在のまちの骨格が少しだけお分かりになるかと思います。土地区画整理事業というのは、土地の所有者様が土地を出し合って、道路や公園等の公共施設の整備ですとか良好な宅地の整備などを行う事業です。新百合ヶ丘は、こうした事業ですとか建物や緑の将来構想を地元地権者の皆さんがつくって、地元の皆さんのまちへの思いですとかつながりで生まれたまちと言えます。

スクリーンは土地区画整理事業が完了した当時の１９８４年頃の写真です。

こちらは現在のまちの様子です。商業施設とか文化芸術施設、緑などの配置がお分かりになるかと思います。簡単な説明ではありますが、こうしたまちの成り立ちなども後ほどの意見交換の参考にしていただけたらと思います。

ここからは、これからのまちづくりについてです。

新百合ヶ丘では、道路、デッキ、公園などの場所を使いながら、地域の皆さんが主体的に様々な活動が行われていて、新百合ヶ丘のにぎわい風景の一部になっています。本日の参加者の皆様もご活躍されています。

後ほどの意見交換の第１部は、「つながりを生かした身近なまちづくり」をテーマとしています。より一層盛り上がるために、いろいろなご意見をお話しいただけたらと思います。

次に、駅の開業から５０年たって、新百合ヶ丘のまちが成熟した中で、様々な課題も生じています。

スクリーンは慢性的な交通混雑や、駅南口のデッキの下が少し暗くて寂しい雰囲気になっている様子です。

意見交換の第２部は、「将来的なまちづくりに向けて」をテーマにしています。新百合ヶ丘をさらに魅力あるまちにしていくために、いろいろなご意見をお話しいただけたらと思います。

最後に、７月に実施した麻生区区民アンケートの結果を少しご紹介します。

こちらは新百合ヶ丘のまちづくりで重点的に取り組んでほしいことを選んでいただいています。自動車渋滞の改善に向けた道路交通環境の整備、歩きやすい・歩いて楽しい歩行空間の整備、商業施設等の充実、緑を活用した居心地のいい空間づくり、駅北側の賑わいづくりなども比較的多く選ばれています。

次に、こちらは駅周辺の公共施設で重点的に取り組んでほしいことを選んでいただいています。駐車場待ちの交通渋滞の解消、交流・休憩ができるスペースの設置、市民館や図書館の利用しやすい環境整備ですとか、建物の老朽化への対応などが比較的多く選ばれています。

これらのアンケート結果なども後ほどの意見交換の参考にしていただけたらと思います。

簡単ではありますが、私のご説明は以上です。この後、麻生中学校２年生の皆さんや地域活動をしている皆さんから、研究成果や活動事例についてお話いただきますので、皆様の発表なども意見交換の参考にしていただけたらと思います。ご清聴ありがとうございます。

司会：若狭課長、ありがとうございます。

<麻生中学校２年生の発表>

司会：それでは、続きまして、次第３番目の麻生中学校２年生の発表に移りたいと思います。

麻生中学校では、授業の一環で麻生区について研究しており、今日は麻生区の魅力について発表させていただきます。では、麻生中学校の皆様、発表の準備をお願いいたします。

では、準備ができたようですので、麻生中学校の皆様、よろしく願いいたします。

麻生中学校2年生：皆様、はじめまして。麻生中学校2年の廣瀬、上井、植村、神崎です。本日はよろしくお願いします。

初めに、私たちは2年生になってからの半年間、6月に行われた鎌倉校外学習を通して、鎌倉市と川崎市の魅力について、総合の時間を利用し、探究を行い、これからの麻生区の未来をよりよくしていくにはどうすればいいか考えてきました。また、その探究で出た麻生区の課題を解決していくにはどうしていく必要があるのか考えてきました。

まず、私たちは麻生区の魅力と課題だと思うところを挙げ、それぞれ4つに絞りました。

麻生区の魅力としては、自然が豊か、交通の便がいい、子育て環境が整っている、平均寿命が長いことが挙げられました。

それでは、資料に基づいて私たちの意見をお話しします。

黒川周辺の地域は自然が豊かで、授業では米作り体験なども行っています。この身近な自然というグラフを見ると、川崎市の中で、麻生区は最も身近に自然を感じることができるということが分かります。

交通では、小田急線が通っているため、都心へのアクセスがよく、新宿まで約23分しかかかりません。また、将来的に横浜市営地下鉄とつながると言われているため、今よりさらに便利になると思います。

また、子育て環境が整っているのも麻生区の魅力の1つでもあります。麻生区には多くの公園があり、このような資料から分かるとおり、1人当たりの公園面積が9.97平方メートルととても広いため、運動する機会をたくさん取り入れることができます。また、治安がよいので安心して子育てできるのも魅力の1つです。

麻生区はとても平均寿命が長いです。市区町村別の平均寿命は男女共に1位となっています。この結果は、麻生区には病院が多く、坂が多いこと、また住民の健康意識が高いことが関わっているのではないかと思います。

このように麻生区には私たちがあまり気づいていないたくさんの魅力があるということが分かりました。

しかし、その一方で、無視できない課題もあると私たちは考えます。今回は、坂が多いこと、街中にごみが多いこと、名物が少ないこと、地域での交流が少ないことの計4つで見ていきます。

まず、坂が多いことについてですが、麻生区は海から最も離れている区のため、山や丘が多い印象です。毎日の通勤通学に不便なほか、日本全体で高齢社会になっている現在、高齢者の方たちに過ごしにくいと思われる可能性があります。しかし、先ほどもあったとおり、坂が多いことで運動不足が解消され、健康増進のメリットもあると言えます。

次に、街中にごみが多いことについてです。こちらのグラフを見ると、家庭系のごみの排出量が年々減っていることが分かります。しかし、公園などで学生のポイ捨てを見かけることが多々あります。これは住民のモラル・意識の低下が関係しているのではないかと思います、今の若者は麻生区に対しての関心が薄いのではないかと思います。

続いて、名物・名所が少ないということです。麻生区にはカジノヤさんの納豆や禅寺丸柿に見立てた最中などの名物はありますが、実際には認知度が低いという課題点が見られます。

また、麻生区は地域の交流が少ないという課題点も挙げられます。新百合ヶ丘駅には時々マルシェがありますが、その行事の中で自分たちが参加していると感じる機会が少ないことから、地域の交流が少ないと感じてしまう人も多いということが課題です。

この表は、令和4年度に中学3年生に向けて行われた全国学力・学習状況調査のアンケートの結果を示しています。

最初に、今住んでいる地域の行事に参加していますかという質問です。この結果の表から分かるとお

り、麻生区の生徒の2割は肯定的に捉えていると言えますが、否定的に捉えている人が8割、川崎市全体や全国の中では大きな差があるということが分かります。

また、これは地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがありますかという質問の結果になっています。この結果を見ても分かるとおり、麻生区の生徒は、川崎市や全国と比べても、地域をよりよくするために考えたことが少ないと分かり、地域に対して行動する機会も少なくなっているのではないかと考えました。

これら2つの結果を見ても分かるとおり、麻生区の生徒は地域に対しての関心が薄まっています。そのため、私たちは、中学生も企画・運営に参加できる地域交流を増やすことで、麻生区に愛着を持ってもらい、住み続けたいと思えるような取組を行っていききたいです。そうすることで、将来、大人になってからも、麻生区に戻ってきたい、住み続けたいと思える地域になるのではないかと考えました。

そこで、私たちはかわさきTEKTEKを活用した新たな取組をしていきたいと思います。新しく1からつくるなどということをしてしまうと、時間もお金もかかってしまうので、従来からある取組を利用し、リニューアルすることにしました。

まず、TEKTEKで使用するマップを新しくします。中学校の授業の時間にマップを作成する時間を取ってもらい、公園や地元のお店を手書きのイラストで描きます。また、作成したデザインマップにスタンプラリーの要素も入れようと考えています。

これを通して、麻生区での地域との交流を楽しく行くと同時に、日々の生活の充実につなげることが狙いです。また、かわさきTEKTEKで行う寄附も小学校のみを対象としていましたが、地域やイベントにも寄附を行えるようにすれば、さらに地域への関心が高まると思いました。

このかわさきTEKTEKで見込まれる効果としては、地域交流の機会が増える、麻生区の魅力をより知ることができる、子どもや大人も楽しみながら企画に参加できるなどがあります。

以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

市長：ありがとうございました。すばらしい発表でした。

ちょっとびっくりしたのが、麻生中と川崎市、全国の比較、かなり地域に参加していないというか、貢献するということとか、関わりが薄いというところが、市内平均と比べても随分薄いということが、ちょっとえっという、ショッキングなことと、でも具体的にそれをどういうふうに変えていこうか、変わろうかと示してくれたこと、既存のTEKTEKを使って工夫してくれたというのは、すごくうれしかったです。

今、TEKTEKも、もう少し改善できるかなと考えている部分もあるので、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。すばらしい発表をありがとうございました。

司会：麻生区の魅力についてすばらしい発表をしていただきました。文化祭や部活動の合間を縫って準備し、発表いただいた麻生中学校の皆様にもう一度拍手をお願いいたします。

麻生中学校の皆様、お席にお戻りください。ありがとうございました。

<地域活動の事例発表「つながりを生かした身近なまちづくり（にぎわいづくり）」>

司会：続きまして、次第4番目の地域活動の事例発表に移りたいと思います。

本日お越しいただいております皆様の中から代表で、新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム事務局の岩倉様と、リンクママの永井様、大村様に取り組んでいる地域活動等についてご紹介いただきます。では、岩倉様、発表の準備をお願いいたします。

岩倉さん：今ご紹介いただきました新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムの事務局を務めております、岩倉でございます。今日は、コンソーシアムの立場、それから私は長く、今日も取材に来ていますが、MY TOWNというこの地域のフリーペーパーを40年以上発行しておりますので、そんな立場も含めて、この地域を長く見てきた立場として、お話をさせていただきたいと思っています。

コンソーシアムの活動をざっと説明をしていきます。今お手元に「しんゆり人」という、こういう冊子があると思いますけれども、この裏面を見ていただくと、2018年に創立されて、農住都市開発、昭和音大、映画大学、三井不動産、小田急電鉄を幹事会社にして、後ろに書いてあるこれだけの会社、それから地域の団体、これからお話しして下さるリンクママさんとか、地域で活動している団体も一緒に動いています。企業が持つ人材、ノウハウで積極的にまちづくりに貢献をしようということで設立されています。

継続的にエリアマネジメント活動を行うことによって、地域課題を解決するとともに、地域の魅力を伸長させて、新百合ヶ丘をサステナブルなまちにするというのが目標です。

具体的には緑と農の溢れる街、芸術と文化を誰もが実感する街、それからオープンで多様性のある街ということで、今日のテーマが、まさにこれに被っているんですけど、「つどい・つながり・めくるめく」というのがコンソーシアムのキャッチフレーズです。皆さんで集まって、いろいろなコラボレーションがそこから生まれて、それから、めくるめく今なんですね。いろいろな活動が生まれていくようにということで動いています。

マルシェはもうご説明をしましたけれども、さっき中学生から、皆さんが参加をする場が少ないというようなお話をいただきました。、いろいろな方たちが参加をする場としてつくっていますので、今度は中学生のためのスペースをつくりたいと思います。ぜひ一緒にやってみましょう。

それから、イルミネーションが今年でもう18年目かな、いろいろなまちづくりのきっかけになったイベントです。11月16日に点灯式になります。

それと、今日、あそこに新百合ヶ丘商店会会長が来て、何か変な格好をしているんですけど、今日これからハロウィンの子どもたちのパレードがあります。子どもたちがいっぱい参加してくれると思います。

あと、ストリートピアノですね。まちの中でピアノの音が聞こえるといいなというようなことを皆さんでずっと考えてきたので、いろいろなところでピアノを弾いていただいたり、点灯式の後にメインツリーの前でピアノを弾いていただいたりもしています。

それから、地域でSDGsの活動をしている子どもたちがいっぱいいます。その子どもたちと一緒にSDGsの活動をしていこうということで、これは会員企業が、その子どもたちがつくっている会と一緒に参加をさせていただいたときの写真ですけれども、こういった活動も支援をさせていただいています。

それと、さっき中学生が挙げてくれた課題の中にあつた部分で、これも我々も本当にどうにかしなければいけないということで、クリーンアップ大作戦と、それから南デッキの美化は、月に1回は必ずやっています。

クリーンアップ大作戦では、区長も参加をしていただいて、これ右下にあるのは春のときですけども、198人ですか、地域の方たちが参加をしていただいて、そして今年は11月2日の日に、このような形で、また活動がございますので、もしよろしければ中学生の皆さんもご参加ください。歓迎でございます。

それから、今年は市制100周年、それから全国都市緑化かわさきフェアということで、それについて麻生区で行う活動をコンソーシアムが麻生区さんと一緒に企画運営をして、進めています。

ここでは絵画展を挙げましたが、この「しんゆり人」には、いろいろなイベントを全部網羅し

て書いてありますので、ぜひ後でご覧ください。推し！絵画展は非常に、ここが新百合のお勧めです、ここがこのまちのお勧めですといっぱい皆さん書いてくださったので、また区役所でも見ていただけるような機会があると思います。

こんな活動をしていますので、おかげさまで幾つか賞をいただきました。今年7月には市制100周年の記念表彰も市長からいただくことができました。

とはいえ、新百合ヶ丘のエリアマネジメントコンソーシアムがこのまちづくりの動きを何か始めたように思われるといけないなと思って、実は新百合ヶ丘というのは、さっき写真が出ていましたけれども、開発前はこんなにすごい山しかなかったところですね。それが開発をされて、麻生区ができて、すごいのは麻生区が4月にできて、すぐもうその10月には区民まつりということで、皆さんが集まって、本当に自分たちの新しいまちで、新しいお祭りをつくるんだということで、お祭りをしたことです。もう40年前ですね。

これはバスのロータリーなんですけど、まだ使っていなかったバスのロータリーを使ったり、これは北口側の、これは今、区役所からのほうを見ているんですけども、何もなかった、今駐車場になっているところでどんと焼きをやったりとか、これは区民まつりの後なんですけれども、冬に第九をバスのロータリーで歌ったりとか、いろいろなことをやってきました。

麻生音楽祭もありましたし、それから芸術はこのまちの1つの大きなキーワードですけども、これも最近になって始まったわけではなくて、こんないかにも昔ですけども、昔から本当に、芸術がまちをつくっていくんだと。芸術のまちにするんじゃなくて、芸術がある、その芸術がまちをつくっていくんだよというようなことでずっと映画祭とかも進めてきました。

これはアート市と言いますが、今のマルシェの前身ですね。これもまだオーパさんがオープンをする前、あそこに97年にオープンするよという看板が出ていますが、オーパがオープンする前からこんなことをやっているということです。

こうすることで、新百合のつどい・つながり・めくるめくということ、さっき幾つか課題を出していただきました。新百合ヶ丘の企業、それから地域の方たちがしっかりと動けるようにその活動をしっかりと下支えしながら、我々自体も中学生の皆さんと一緒にいいまちづくりを進めていきたいと思っています。ありがとうございました。

市長：岩倉さん、どうもありがとうございました。まずは、中学生を早速巻き込んでいただいて、つながっていただいてありがとうございます。

今、ご紹介いただいたように、エリアマネジメントコンソーシアムができる前から、麻生区のまちづくりにいろんな人たちが取り組んでくれたということをお話しされましたけれども、今、この岩倉さんたちのグループが、いろんな人たちをさらに巻き込んで、94団体とおっしゃいました、多くの人たちが参加して、文化をつくり続けているという部分にすごくありがたいなと思っています。

中学生の発表にもありましたけど、緑が多い、芸術のまちということが、こういう形でいろんな人たちを巻き込みながらつくっていただいているということをすごくうれしく思いました。やっぱりイルミネーションもそうですけど、ある意味やり続けることによって、麻生区の文化になりましたよね。本当に誰かがつくっているんじゃなくて、みんなで区の顔をつくり出したということがすごく印象的に感じました。ありがとうございます。

司会：岩倉様、ありがとうございました。

次に、リンクママの永井様、大村様からご発表いただきます。それではよろしく願いいたします。

永井さん：私、リンクママという団体の代表を務めております永井和美と申します。よろしくお願いいたします。

このリンク、つながるという意味なんですけれども、これから説明させていただきますが、ママの孤立をなくすため、ママとママ、ママと地域を繋ぎ、互いに学び合いながら地域の親子の暮らしと心が豊かになり、多くのママが幸せになるための活動を行うというのがリンクママの理念でございます。新百合ヶ丘はやはり、新宿までの交通のアクセスがいいということもありまして、結構、引っ越してくるママが多いんですね。結婚して、旦那さんが都内に通えるからとか。そうすると、全然知らない土地に来て、出産を機に、そこで人同士のつながりを持って、みんなで子育てができたという思いであります。

リンクママはどういう組織になっているかといいますと、「マナビーママ」「Teach mama」「Sitter mama」の3つのママから構成されております。

「Teach mama」というのは、お料理だったりお花だったりの講座の講師ができる先生たち、「Sitter mama」は、講座とかワークショップで保育を担当する方たちで、現在は支援センターのスタッフも兼ねています。「マナビーママ」は、その講座に参加したり、ワークショップに参加したりするママたちが、現在135名登録してくださっております。

実際、ワークショップはどういうことをやっているかといいますと、今日は新百合ヶ丘商店会の会長さんもいらっしゃいますけれども、商店会の中の一部にあるしんゆり交流空間リリオスという建物が、この駅の向こう側にありまして、1回目から、次43回になるんですけれども、ずっと同じ場所です。ほかの場所でやったことはないんですね。ここで保育つきのワークショップをしております。お母さんたちが物づくりとか、マッサージとかを受けている間に、Sitter mamaが子どもを保育します。そこでお母さんたちが交流をしたりリフレッシュしたりということを行っております。ワークショップはこういう感じですね。

SDGsの取組として、子ども服交換会と絵本譲渡会もやっておりまして、子ども服はサイズアウトしたお洋服を持ってきてもらって、大きいサイズの洋服と取り替える。絵本は、子どもが大きくなったお母さんが絵本を持ち寄って、それを持って帰っていただくということをやっております。

川崎市の委託事業で地域子育て支援センターを2か所やらせていただいております。ちよがおかとかきおですね。ちよがおかは、最寄り駅は新百合ヶ丘ですね。新百合ヶ丘から10分ぐらいのところですかきおは柿生駅から15分ぐらい、ちょっと山の上なんですけれども、そこでも講座ですとか、読み聞かせですとか、簡単工作、地域のサッカーのコーチを招いての初めてのサッカー教室、あとは地域のママさんのアンサンブルの団体をお招きしてコンサート、来月もコンサートがあるんですけれども、こういった取組をしております。

先ほどお話しされた新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムの岩倉さんにも大変よくしていただきまして、いろいろマルシェにお誘いいただいて、オーパさんの地下で出店させていただいたこともありますし、あと防災訓練で行政と一緒にやるときに参加させていただいたりもしております。

先ほどお話ししたリリオスでは、リンクママ立ち上げ当時から防災活動にも力を入れておりまして、液体ミルクは一体どうやって使うのかな、実際、災害時に本当に役に立つのかなということで、株式会社明治様にお越しいたきて、液体ミルクについての勉強会などもしたりしています。自分たちでも動画を作成しました。パンフレットから防災啓発動画、QRコードがついていますので、ぜひ市長も後で見てください。結構頑張ってつくりましたので。

あと、新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムさんと麻生区がつくられた防災動画の中でも、明治さんに教えていただいた、哺乳瓶がないときにカップフィーディングというやり方でミルクをあげることができるんですけれども、そういったことをやらせていただきました。

あと私どもは、ご縁があればどんどん、これナウ産業さんは綾瀬市の企業さんなんですけれども、鉄

の部品を作っている会社です。その鉄の部品を作っている会社がキャンプでも使えるような鉄鍋、いろんなスタイル、スタイリッシュなものを考案されたんですね。それで、それを使っのレシピをママさんたちが交代で考案させていただいて、ブログで紹介させていただくというアンバサダー的なことをやらせていただいております。そのナウ産業さんに新百合ヶ丘のマルシェはこういうのがあるんだよというのをお伝えして、綾瀬市の企業さんが新百合ヶ丘に出店する、外の企業が新百合ヶ丘に来て出店するという運びにもなっております。

外とのつながりということでは、これもちょっとご縁がありまして、石川県の珠洲市ですね。限界集落、もう何にもないところなんです。何も無いんですけども、自然は豊かなんです。そこで太陽エネルギーとかを使いまして、自分たちで食べ物もお米も作って生活していくということにチャレンジしている方たちがいまして、その方とつながることができたので、新百合ヶ丘はマンションが多いんですけども、ベランダとかでもジャガイモもできますし、ミニトマトもできますし、作ろうと思えば何でもできるんですね。別に土地がなくても、自分の敷地内である程度自給自足ができないかと、ベランダ菜園でつながるプロジェクトというのを2年前にやらせていただきました。

あちらの方が新百合ヶ丘に来て、マルシェも出店してみたいという話もあったんですけども、ご存じのとおり、災害に遭ってしまって……。ただ災害に遭って、本当に災害になると自分たちでエネルギーをつくったり、食べ物を調達したりということがどれだけ大切なことかというのがよく分かったので、それをちょっと落ち着いた段階でまた始めたんですね。なので、こっちからできる応援はしたいと思っていますし、そこから私たちが学ぶこと、関東でも地震がいつ起こるか分かりませんので、あちらから学べることを自分たちの中に入れて、何か災害に対する備え、啓発活動ができたらいいなと思っています。

戻りますと、ワークショップ、これももともとはママたちと思ってやっていたんですけども、コロナを機に、在宅ワークのお父さんが増えたり、育休を取られるお父さんが増えたりして、結構お父さんも参加できるようになったんです。なので、今はママだけではなくパパも、そしておじいちゃんやおばあちゃんも地域の子もたちに関わる全ての方に参加していただけたらという形で、どんどん輪を広げています。今まで学生さんという思いはなかったんですけども、今は平日にやっているんですが、来年度からは2回のうち1回は土曜日開催の予定でいるので、ぜひ中学生も何か一緒にできたらいいなと思うし、大学生もいますし、ママというだけではなくて、いろいろな世代の人たちが今後はリンクしてつながっていったらいいなと思っています。以上です。ありがとうございました。

市長：永井さん、ありがとうございました。

今日のキーワード、つながるといふ、リンクママは本当にママをつないでいただいて、ママだけじゃないところまでつながり始めているということで、本当にありがとうございます。

永井さんが言われたように、川崎は、結婚して、転入してきて、そして初めての妊娠出産という方がすごく多いので、そういう意味では孤立する、誰も友達がいない状況から始まる家庭というのは多くて、どうやって不安を解消するかというのは、私たち行政としてもすごく重要な課題だと思っているんですけども、でも行政の支援という前に、永井さんたちのグループが、楽しみながら心豊かにつながっていきこうという、そういうポジティブな取組がやっぱりここに住み続けて安心だなと、そういうことになっているんじゃないかなと思っています。ぜひこれからいろんなつながりをしていただければと思います。どうもありがとうございます。

司会：永井様、ありがとうございました。

ご発表いただいた皆様にもう一度拍手をお願いいたします。

<意見交換>

司会：それでは、次第5番目の市長との意見交換に移りたいと思います。

ここからは車座として皆さんで円になって意見交換できればと思いますので、お手数をおかけいたしますが、舞台上までご移動をお願いいたします。お荷物については座席に置いたままでも構いません。名簿の番号と同じ番号のお席にお座りください。

ご準備はよろしいでしょうか。ここからの進行は市長が行います。どうぞよろしくお願いいたします。

<意見交換 第1部 つながりを生かした身近なまちづくり（にぎわいづくり）>

市長：改めまして、よろしくお願いいたします。今、時間は10時45分です。意見交換は2部になっていて、まずは「つながりを生かした身近なまちづくり」について、にぎわいについて、今、ご発表いただいたところもありますけれども、どんな取組を今やっているかということを皆さんで共有させていただきたいと思います。どなた様からでも結構ですけれども、こんなことをやっているよというお話をいただければと思いますが、いかがでしょうか。どなたかご意見いかがですか。

では、岩田さん、よろしくお願いいたします。

岩田さん：今までの発表とはちょっと話が違って、私、自治会の会長をやっています、自治会としてこんなことをやっているよというのをお話しさせていただきます。

今までの話でも本当にそうだなと、人のつながり、これをつくるのが自治会活動の一番なんですね。自治会として今一番力を入れているのは防災対策です。もう1つは廃棄物減量、廃棄物をいかにリサイクルするか、それをしっかり回して、地球温暖化にも貢献しようという、この2つに一番力を入れているんですね。

防災活動も自治会内でいかにしっかりと備蓄とかそういうものを個人がする、それで何かあったときにはどうやって助け合うかというようなあたりをいろいろやっているんですけど、何かあったときに急に集まったってできるわけがないんですね。だから自治会としても、住民の皆さんとの日頃のつながり、これを一番大事にしてもら。総会には、なるべくみんな集まって議論しようよとか、防災訓練はみんな集まってきて一緒に体を動かしてやろうよとか、そのほか親睦会でも、親睦会はちょっとお酒も入りますけど、そういう活動を通じて親しくなって、できたらある程度顔見知りになって、そうすると、何かあったときにも一緒に議論ができる、相手と違う意見であっても、顔見知りだと少しは相手の意見を聞こうとする、そういうことでいろいろなことが進んで、いざというときにも何とかなるかなと思っているんですけど、課題が1つあって、自治会に入っていない周りの方もいるんですね。アパートに住んでいる、ワンルームに入っている方はほとんど入っていない。でも、実際、この方たちのほうが若くて、我々、自治会に入っている年寄りよりもよほど何かあったときに活躍できるんですね。そこが何か活躍の場にもうまく引き込めないかなというのが課題です。

市長：それ、ありますね。いや、実は今週の水曜日ですかね。市立の小中特別支援学校、高校の生徒さんと意見交換会というのがあったんですけど、ある中学校が、自分たちがもし災害に遭ったときに、働けるのは実は私たち中学生なんじゃないかと。だから自分たちでどんなことができるか今考えていますというふうな話をされて、心強いと。高校生になってしまうと意外と自宅から遠いところに学校があって、昼間なんかすぐに戻れないという場合があるんですけど、中学生は実は近くにいるという話があったんですね。

岩田さん：なるほど、そうですね。

市長：大学生も頼りになるんだけど、実は中学生はどう？ 地域の防災イベントとか、避難所運営訓練とか、何か参加したことがある人、4人の中で。

廣瀬さん：授業でそういう時間を取ったときがあって、防災のトイレを作ったり、実際に揺れを体験してどうなるのかみたいなのを体験したりする日があったんですけど、でもそれ以外は防災という意識としては、中学校全体ではあまりやっていないかなというのが現状です。避難訓練はやっているんですけど、地域で防災をしようみたいな意識はまだ低いかなと思います。

市長：ぜひご自身のお住まいの自治会は何町会かを調べてもらって、必ず防災訓練をやっていると思うんですよ。ぜひ参加してもらえればうれしいですね。

岩田さん：そうですね。

市長：岩田さん、中学生に呼びかけるというのはいいかもしれないですね。

岩田さん：そうですね。小学生も含めてね。避難所というのは大体小学校じゃないですか。中学校は拠点になっている。麻生中学校は、金子校長も含めて非常にその意識が高いんですよ。

市長：ありがとうございます。そういえば水曜日、中学生が、避難所になったときに、私たちは赤ちゃんの面倒を見られますと言っていました。子どもたちは、小さい子どもたちが避難所に来たときに、私たちは遊ばせることができますという、頼もしい発言をされていて、やっぱり避難所は、みんな、全ての世代の方たちが集まってくる、災害時なんかね。こういうことをきっかけにして、日頃からのお付き合いを、つなぎをさせていただいているということですね。すばらしい取組をありがとうございます。いかがでしょうか。富長さん、お願いします。

富長さん：生まれてからずっと麻生区に住んで、現在大学生の富長と申します。よろしくお願いします。

僕がやってきたことがちょっと多過ぎて、紙に一応まとめさせていただいたんですけど、現在、川崎市100周年で、「カワサキノコト」の冊子にも一緒に撮影させていただきました。ありがとうございます。

僕は、現在、麻生区ソーシャルデザインセンター及び多摩区ソーシャルデザインセンターにも所属しているんですけども、若い人とか、東京で働くサラリーマンとかが多い中で、ちょうどこの前、あさお区民まつりがあって、新しく中学生とか高校生にチラシを撒かせていただいたりして、中学生が約20名、高校生が約30名、大学生も30名で、計80名ほど、地域でイベント参加するということをやらせていただきました。先ほど麻生中学校さんの発表で、なかなか若い人が参加しづらいというご意見にもあったとおり、積極的に部活動の発表の場ですとか、あとはボランティアスタッフというところで若い人が地域に入っていけるように、あさお区民まつりの事例を基に、もっとどんどん発展していきたいと思っています。

市長：すごくないですか。ちょっと写真を見せて。これ多摩区のソーシャルデザインセンターで、学生さんがものすごく集まっていってびっくりしたんですけど、麻生区でも立ち上がって、ありがとうございます。

これだけまた人が集まってきているんですか。

富長さん：そうですね。先ほどの繰り返しにはなってしまうんですけども、チラシを見てとか、あと知り合いづてというところで、計８０名の学生が、今回のあさお区民まつりには参加しました。

市長：僕は、コロナの期間中にみんな大学のサークル活動とかができなくなったから、そういう人たちが手を貸してくれているのかなと思ったんだけど、コロナが明けてからもそうやって人を寄せつけているわけですか。

富長さん：そうですね、はい。

市長：どうやって。

富長さん：まずはチラシですね。いろんな塾、子育て支援のようなものだったりとか、こども食堂とか、麻生区でもやらせていただいているんですけども、そういうところから地道にチラシを配布させていただいたりして、学校とのパイプというんですかね、おつなぎをしてもらって、そこから定期的に、そのような事業のようなものがあったら、チラシをちょっと配布させていただいたりして、あとは大学のポータルサイトのほうにも掲載してもらって、そこから気になった人に入らせていただいているという形で。

市長：すごい。ちなみに妹尾さんは、どういうきっかけで巻き込まれたの。あ、言い方がよくないですかね。

妹尾さん：私はもともと川崎市の教員になりたくて、こども食堂を中心にいろいろなイベントに参加させていただいて。無事合格しまして、来年度からは川崎市の教員として働かせていただくことになりました。

市長：おめでとうございます。来年から川崎市立の。

妹尾さん：はい。

市長：教員。

妹尾さん：小学校の教員として。

市長：小学校の。うれしい。ずっと麻生区ですか。

妹尾さん：そうですね、はい。

市長：地元で育ち、地元の教員になる。すごい循環が生まれていますね。

妹尾さん：もともとはこういった活動に参加しなければ、ほかの都道府県とかも考えていたと思うんですけど、私も、マイシティ新ゆり町内会のイベントに参加させていただいて、麻生小学校の校庭でイベントをみんなと協力しながらやっていく中で、川崎市の良さといったものを感じ、子どもたちにもつなげていけたらなという思いもあり、今に至っています。

市長：ちょっと感動して涙が出てきそうですね。町内会イベントに参加をしているんですか。

妹尾さん：はい、そうです。

市長：岩田さん、うれしいですね。

岩田さん：そうですね。

市長：ありがとうございます。

妹尾さん：ありがとうございます。

市長：私もつながっているよという人、次々とちょっとご発表いただいてもよろしいでしょうか。
俵さん、どうぞ。

俵さん：私も保育園から麻生区にいますけど、今回のあさお区民まつりとか、あさおSDCのほうに保育園から高校までの友達30名ほどに参加してもらうようにちょっと巻き込ませていただいて、ほぼ同窓会みたいな感じにはなってしまったんですけども。そこから、その子の親御さんとか、あと私が地域で遊んでいたときに、地域の方々が犬の散歩がてらにお菓子をくれたり、一緒に遊んでくれたりというのがあったので、そういう人たちも巻き込みながら何かできたらいいなというふうに考えながら学生チームをつくっていききたいなと考えています。まだ大学1年生なので、私の場合は。

市長：大学1年生ですね。

俵さん：はい。

市長：巻き込み力が半端じゃないですね。インフルエンサーだよね、もう。びっくりしますね。
岩倉さん、どうですか。

岩倉さん：いろんなところで、ぜひコンソーシアムにも力を貸していただきたいです。

先ほども、本当にああそうだよなと思ったのは、僕自体もやっぱり中学生から大学生ぐらいのときはやっぱり地域になかなかいられないというか、外に出てしまう時間があったので、今、お話を聞いて非常にうれしかったです。

実は、マルシェのスタッフにも地域の学生さんたちが入ってくれているんですけど、ここで一緒にマルシェをやってみて、それがすごく面白いと思って、どうやってまちづくりをしていくのかという学問に進まれて、それから勤め先もやはりそういうところを選ばれるというような、そういうことも生まれているので、本当にこれからが楽しみです。

コンソーシアムはマルシェもありますし、いろんな場がありますので、ぜひ一緒にやっていきましょう。

市長：今日、僅か1時間ぐらいでつながりがどんどん生まれつつありますけれども、引き続き、若い、中学

2年生の皆さんにもお話を伺いたいですけど。

上井さん：私たち、夏祭りが麻生中学校で開催されたときに参加させていただいたんですけど、そこでは麻生中学校のダンス部と吹奏楽部が演奏と踊りを披露してくださって、そういうところすごいつながりが感じられたというのもあって。私自身、夏祭りが大好きで、万福寺会館でのお祭りだとか、麻生中学校での夏祭りを通して、中学校の部活帰りとかにマルシェとかにもすごい通って、楽しみたいなという気持ちがある反面、やっぱりなかなか予定とかが合わなくて参加できないという課題もあるので、ぜひ部活動で参加したり、マルシェとか、こういう麻生区の行事を中学校の行事に合体させていったりすることで、私たちも身近に参加できるんじゃないかなと思いました。

市長：ちょっと拍手。

上井さん、スーパー中学生なんですかね。

もうご発言という感じですけど、こういうご発言をしていただいて、新百合ヶ丘商店会、小島さん、いかがですか。

小島さん：商店会、小島でございます。

私こんな格好をしているのは、新百合ヶ丘商店会が1年に1回開催しているしんゆりハロウィンパレードがまさに今日、実施日でございます。以前は桐光学園さんなどにお手伝いいただいて、高校生にパレードに安全係という形で参加していただいたこともあります。ですから、麻生中学校の生徒さんにそのような活動の意思があるのであれば、ぜひ手を挙げていただいて、一緒に変装して町なかを歩いていただきたいなと思っております。ありがとうございます。よろしくお願いします。

市長：結構中学生も忙しいから、部活動単位で一緒にやると。いいですね。

来週だったかな、川崎駅前には落書きが結構すごいですけど、川崎区内の中学校が、部活単位で、実は落書き消しに参加してくださっているんです。中学生、高校生がいるので、今、上井さんの話を聞いて、そうか、そういうことがあるかと、ナイスアイデアだし、ぜひ区長からも校長とかにダイレクトな働きかけのようなことはどうでしょう。

区長：そうですね、先ほどの麻生中学校の発表を聞いて、やっぱりなかなか区役所が中学生にリーチできていないなということを感じました。確かに区役所にいると、未就学児までは健診だったり、保育所の入所だったり、いろいろな業務上の接点があるんですけど、小学生以上になるといきなり区役所が遠い存在になってしまうということで、なかなか個別にやっていることが、中学生の皆さんに伝わっていないということが分かったんですけど、こちらとしても中学生は、勉強、塾とか部活が忙しいんだろうなという思いもあって。今おっしゃっていただいたように部活単位で行事に参加するとか、そういう発想が全くなかったんで、本当にそう言っていただけるとありがたいなと思って、そういう形で参加していただけるようにこちらもアプローチできればなというふうに思いました。

市長：ありがとうございます。実は幸区にある幸高校の皆さんと中学生や小学生がみんなで議論する機会があったんです。そのときに小学生から高校生と遊びたいという話が出まして、小学生が高校生と遊びたいというのは、おじさんからはちょっとよく分からない感覚だったんですけど、実は高校生も小学生と遊びたいと言うんですね。それにびっくりして、そんなことある？と思って、でも高校生は忙しいですよねと言ったら、暇なやつは暇ですという話があって、実際に校庭開放をやったときに、小学生が校庭

で遊び、高校生たちが面倒を見るということが、幸区のほうで今始まっています。ですから、今までは、区長が言われたように、忙しいだろうとか、ちょっと固定観念にとらわれていたものを、実は子ども同士や若者同士で話すと意外な発見があってびっくりするというのが、本当にこのメンバーからもいろいろ出てきました。

では、大人のほうも負けじとご発言をいただけるとありがたいんですが、大村さん、よろしいですか、ご発言いただいても。

大村さん：はい、今、聞きながら、子育ての支援センターを運営していますと、子どもたちの交流というのは、ちょうど夏でしたか、ボランティアのほうで子どもたちと一緒に呼んだりとかすると、小さい子どもたちもすごく元気になってくるんですね。それを見たお母さんたちがやっぱり安心するみたいなどころはあるので、そういう関わり合い、子どもたちからこの地域への密着みたいなことはすごく、やっていけたらいいのかなというふうに、お話を聞きながら思っていました。

市長：そうですね、ありがとうございます。

いかがでしょう、小松崎さん、いかがですか。

小松崎さん：皆さんとは若干違うかもしれないですけども、私は北口の新百合山手という万福寺地区で、公園協議会という団体を運営しておりまして、つながりという意味でいいますと、年に3回、4回ほど住民の皆様にお声がけをして、皆さんに集まってもらって、公園をきれいにしましょうという活動をずっと続けております。

先ほどの中学校さんの課題にもありましたけど、緑は多いんですが、なかなかそこをうまく生かしていないということもあり、皆様が親しんで集まってくれるような緑なり公園なりを、ボランティアを中心に頑張って、きれいにしようと、維持しようという活動を続けているんです。なかなか人が集まらない中で、今、年に3、4回、やるときには大体100人ぐらいの人に集まっていて、汗を流してやっていただいています。特に今年については緑化フェアというイベントもある中で、麻生区役所さんがいろいろ動いていただいて、スタンプラリーという形で、この新百合ヶ丘を中心とした麻生区の中のいろんな公園緑地を見て回って、スタンプラリーをしながら親しんでもらうというような機会をつくっていただきました。特に我々の新百合山手の公園協議会では、12月に皆様に集まっていただいて、落ち葉掃きをして、公園の中をきれいにしようというような企画も進めておりますので、公園なり、緑なりを通じてつながりを持つとか、そういった場面をできるだけ多くつくっていききたいなと思っておりますが、なかなかこれも人材が足りないものですから、中学生さんとか、ソーシャルデザインセンターの皆さんにも声をかけながら、集まっていただく機会をつくれればなと思っています。

市長：ありがとうございます。

小松崎さんところはすごいんですね。本当にいろんなところから表彰されるほどのすばらしい活動をしていただいております。緑化フェアのキーワードも「みどりでつなげる。みんなが、つながる。」で、要するに緑というものを通して、みんながつながっていこうということをテーマにしているんですけども、まさにそれを実践していただいておりますが、さらにみんなで、多世代でということになると、先ほどのお話じゃないけど、アイデアベースから、自分たちもこんな公園だったらうれしいなとかと、そういう話というのも、小松崎さん、ウェルカムですよ。

小松崎さん：もちろん、はい。

市長：いかがですか。神崎さん、どうですか。公園、緑。

神崎さん：どういう公園だったらうれしいかですよ。

市長：公園に関わりたいたとか、緑は自分たちにとってどういう存在だとか、自分と緑と公園、自分と公園との関わりとかというのは何かありますか。

神崎さん：私は、あまり公園とかに行かないタイプの人なんです。どういう公園だったらうれしいかというのは、私は緑というのは本当に、吸っているとすごい気分がいいじゃないですか。だから、何かずっと、何というか……。

市長：この4人の中で、結構公園は利用している、していたという方はいますか。廣瀬さんはしていた？

廣瀬さん：はい。近所に隠れ谷公園という場所があるんですけど、そこで隠れ谷倶楽部という清掃を行う活動の団体みたいなものが小学校の授業で、小2か3ぐらいのときに習って、そこからは土日のどちらかであるんですけど、空いている日は活動に行くとか。今、小1の妹がいるんですけど、妹も公園で遊んだら泥だらけで帰ってきて、公園を下の世代は身近に感じているけど、中学とか高校に上がっちゃうと、公園じゃなくて駅前に遊びに行くとか、そういうふうになっちゃうので、緑を身近に感じるというんだったら、公園も大事ですけど、もうちょっと町なかにも緑を増やしたら、ちょっと上になった世代でも、緑を感じられるんじゃないかなと思います。

市長：参考になります。

局長、どうですか、今の。公園だけでなく、駅前とかにも緑を増やせと。

局長：はい。私、新しいまちづくりの事例を聞くと、いてもたってもいられなくて、昨日、仕事をさぼって大阪に行ってきました、うめきたという、梅田駅前、大阪駅前に行ったんですね。大阪駅前なのに芝生広場があって、もう本当に若いママとか女性が集まっているんですね。そこで、ちょうど世代的にも、ちょっと私の前に、こういった世代の女性2人が、「めっちゃいいやん、この空間」みたいな、本当にそれで集まってくるというような感じで、やっぱり駅前などにそういう空間をあえてつくる。実際は空中を寄せているんですね、高容積にして、そこで生まれた広場を緑地にしているということですね。これからそういう価値をつくっていく時代なんだろうなと感じました。

市長：いや、そうですね。いや本当、いい意見をありがとうございます。

麻生区は、本当に緑が、川崎市内だと最も豊かなところなんですけれども、では、駅前はどうかという、せっかくちょっと離れたところにはいい公園も緑もあるけれども、それが連担していないというふうなのは、ちょっと残念な感じはしますよね。

鈴木さん、ちょっとご意見などがありましたら。

鈴木さん：ちょうど私は区役所の隣に住んでいますから、今言った話が物すごく響いてくるんですけど、先ほど岩田会長の話がありましたけど、私のほうは、町内会はちょっと違うんですね。万福寺町内会、そちらのほうにも関わっていますし、岩倉さんの先ほどのエリアマネジメント、そちらにも関わっていま

す。こちらの公園にも関わっているんですね。ですから、いろんなところで関わってはいるんですけど、先ほちょっと話がありましたけど、人を集めるのはやはり大変なんですよ。だから、一番考えるのは、今日、本当に若い人からこれだけすばらしい発言があるんですけど、彼らが大きくなって、ちょうど20代から40代ぐらいになってくると、逆に別な意味で忙しくなるんでしょうけど、町内会とか地元の活動になかなか参加していただけてなくなってくるというのがあるのかなと。だから、ある程度、町内会とかいろんな会合とかがあると、大体、いわゆる60代半ば以上ですかね、今は。そんな引退したような人が中心になってしまう。実際、動いてほしいのはもっと若い人なんですよ。

ちょうど万福寺でも夏祭りというのをやっていますけど、これもやはり今、100人以上のボランティアで成り立っているんですが、幸いなことに、マンションがたくさんありますので、そのマンションの方々がすごく、お祭りのときだけは頑張ってくれます。だから、これは全般的に先ほどの公園の、いわゆる草刈りだとか、きれいにするような行為、そんなところも頻繁に参加してくれるといんですけど、なかなか子育てをされて、それどころじゃないというところもあるんだと思いますけど。

これからの若い人は、今、すばらしい発言がありましたので、それをずっと忘れないで、そのまま育ててもらえるとありがたいなと感じます。

市長：ありがとうございます。でも、ライフステージとして、確かに20代は就職して忙しくなってきた、40代となると本当にバリバリ働かなくてはいけない、地域のところに行きたいんだけどなかなかという部分というのはどうしてもあると思うんですけど、例えば10代、20代、60代アップというふうな、そこがガッと集まるだけでもすごい力になると思いますし、ぜひ町会活動なんかにも、地域の活動、自分たちのできる方法で関わってもらおうとすごくありがたいなと。

働き盛り世代、永井さん、今のどう思います。永井さんは仕事という形で地域にすごく深く関わっていただいていますけど、それこそ30代、40代とかという世代の人たちが、どうやったらこの地域にもう少し関わってもらえるかなという、ママアプローチとか、何かできますか。

永井さん：私、息子が高校1年生でして、こういう意見を持った中学生じゃなかったし、大学になってもそういうふうには言わないのではないかなと思って。まちづくり、ママは頑張っているけど、僕は参加するのが好きという感じだったので、もうみんなの発言がすごいびっくりなんですけれども。私たちは確かに40代、30代の仲間が多いです。子どもができれば、今度はママを通してのコミュニティがあるんですね。なので、そこからのアプローチはできますし、この世代がつながって、一旦忙しくなって、お仕事に夢中になっても、やはり若いときにそういう経験をしていると帰ってくるのかなと。ママで忙しくなるんですけども、子育てをしながらも地域と関われるタイミングは、また合間合間に出てくるので、若いときにやっていると、それがふっと入りやすい。だから、積極的に今活動している年上の方たちが、この世代を、意識が高い子をどんどん巻き込むことによって、10年後、20年後に帰ってきてくれるのかなと思って聞いていました。

市長：ありがとうございます。ちょっとお待たせいたしましたということですけど、山本さんと鈴木さん、まさに新百合ヶ丘の顔的な商業施設になっていますけれども、これだけいろんな方たちがいる中で、いろんな活動を通じて、巻き込んでいただいて、工夫をしていただいていると思うんですけど、ちょっとご紹介いただけていいですか。

山本さんからお願いします。

山本さん：オーパ、山本でございます。学生の皆さんのご意見を聞いていて、急に緊張してきました。うま

くしゃべれるかなと思ひながら。

ちょっと皆さんと違ひまして、我々は転勤族になりますので、私もまだ来て2年でござひます。さっきちょっと出ていましたけど、97年でしたか。できて27年たつんですけど、これはこの店だけじゃないんですけれども、いろいろなお店に行つてきて思ひのは、地域の活動というのとはなかなかやってきていないかなと、どの店についても。

どうしてもお店を入れ替へて、それも1つの地域貢献なんですけど、なかなか溶け込んでいていないんじゃないかということを感じていたので、できるだけ地域に溶け込んだことをやっていこうということで、我々のほうは店舗から拠点へということで掲げていまして、拠点化をして地域に根差していこうということで考へて、いろいろここ2年間やってまいりました。特に、春がアースデー、秋がSDGs週間ということで、これを2年続けてやって、この間、9月にやりまして、ブラインドメイクという、目が不自由な方が自分でメイクをするという手法があるんですけど、それを健常者さんの方にも描いていただいたりとか、あとヘアロスで、ご病気とかで髪が抜けてしまう方にウィッグの試着会とか相談会をしたりとか、できるだけいろんな地域の団体とか、ほかのところの団体の方も引っ張つていて、いろいろ地域に根差した活動をしてきた中で、今、絶賛改装中ではござひまして、いろんな店舗を入れていくんですが、その中に、もう今までの改装と違って、地域に根差したものをに入れていきたいということで、2つ入れています。

春にやったのが、2階のちょうどトイレに行くところなんですけど、アートdeみらいギャラリーというのをつくりまして、それは地元の方とか、いろんな方、要はプロじゃない方とかも、作品の発表の場をつくつていこうということで、今ちょうど生活介護事業所のピカソ・カレッジさんの作品を入れているんですけども、そういう方たちの作品を入れて、ちょっとあまりうまくはいっていないんですけど、ネットで作品を買えるようにして、上がった収益を作家さんのほうに還元をしていくというようなスキームでつくらせていただきまして、メセナ協議会のほうから、今回、メセナ認定をいただいたという形で、これはどんどん続けていきたいなということが1つ。

2点目が、今ちょうど、今月中にできると思うんですけど、先ほども写真が出ていましたけど、バスターミナルのところ、もう40年たって、これは文句を言っているわけじゃないんですけど、非常に暗くて、ちょっとあまりよろしくない環境だということで、ちょうど一番目の前に今度、スーパーストックトーキョーさんに入つていただくんですが、いろいろ話をして、1年以上前にプレゼンするときに、あそこを我々の力でやりたいと、きれいにするんだということで説明をいただいて、今回、実行していただくんですけども、川崎市さんのほうにご相談をしたところ、木質化の補助をいただきながら、うちの前の6本だけですけども、木質化をして、あそこをきれいな環境にして、いろいろなイベントをして、にぎわいをつくつていこうということを今年2つやらせていただくと。

これをまた来年、再来年、いろんな緑の活用の話も出ていましたけど、そこに我々が入つていって、地域をどんどんよくする活動をこれからもやっていきたいなと思つて、頑張らせていただきます。

市長：ありがとうございます。木質化のところ、少し暗いところをすごくいい環境にさせていただくというのは、本当に大事なことで思ひますし、ご協力ありがとうございます。そこがまたにぎわいのスポットになっていくとなると、その隣も、その隣もというふうな形になっていくと、全体的に雰囲気が変わってくるということになりますよね。ものすごく立派な貢献をいただいて、本当にありがとうございます。では、鈴木さん、よろしいでしょうか。

鈴木さん：はい。よろしくお願ひします。

私どもは、駅前店舗等にはなるんですけど、このまちづくりという意味では、今年と昨年と、過去

2回、夕涼み会というものに参加させてもらいました。夕涼み会で我々が一番驚いたのが、夕涼み会はお祭りの要素の多いイベントですが、そこに集まってきてくれた市民の皆様というのが、子どもからお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんも含めた、幅広い年齢層の方が、ご家族、友達、近所の方で集まっていたで、すごくそういうイベントを待ち焦がれていたのかなというところが非常に感じられたところはあるので、まだ2回実施したというところなんですけど、これからイベントを育てるというところ、継続させていくというところについては、ぜひ協力させていただきたいと考えております。

そういったことを通じて、我々は店舗として、まちづくりに協力させていただく、まちづくりというのが、そのつながり、家族、友達、近所の方とか、そういったつながりに協力していけたらと考えております。

市長：ありがとうございます。山本さんと鈴木さん、まずこの場に参加していただいているということ自体が、まちづくりの中に参加していただいているそのものだと思いますし、いろんなイベントだとかを通じてつながるというふうな形にさせていただいて、すごくありがたいなと思っています。ここでまず全員と名刺交換していただいて、若い人たちともつながっていただくということは、すごくお互いにとっていいことなのかなと思います。どうもありがとうございました。

時間的に大丈夫でしょうか。ぴったりでございます。奇跡的に。

第1部ではつながりということでお話しさせていただきましたけれども、これは絶対に言いたい、言っておきたい、という方はいらっしゃいますか。大丈夫でしょうか。

<意見交換 第2部 将来的なまちづくりに向けて>

市長：それでは、引き続き第2部ということで。これまでソフトの面で少し話してきましたけれども、第2部については少しハード的な話ですね。

これからのハード的なまちづくりを、今の課題と、それから将来こういうふうになってくれたらいいなというような話、未来の話を少し皆さんから伺えればなと思いますけれども。

誰からでも結構です。どうでしょう。

大村さん、ありがとうございます。

大村さん：私は、赤ちゃんを育てている世代と一緒に話す、聞くことが多いですし、私自身が新百合ヶ丘駅をよく利用するんですね。今日も通ってきているんですけど、北口のほうをよく利用してまして、そのときにいつも思うのが、交通渋滞、さっきスライドで出ていたと思うんですけど、実は人の渋滞も起きているなというのはすごく感じていて。

歩道がちょっと狭いので、坂になっているんですけど、駅に向かうときに。ベビーカーをお母さんたちは一生懸命押しているんですね。そうすると、向こうからも人が来るので、後ろに渋滞ができたりとか、さらにもう1人子どもが横にいと、どうしても人が通れないというので、人の渋滞も起きているなというのはよく聞きます。駅まで行くところ、その先はアートセンターがあって、今日もちょうと紅葉をしていましたけれども、すごくきれいな雰囲気、もうそろそろきっとイルミネーションが点灯したり、子どもたちがワーッと少し遊んでいても安心みたいなのと、反面、ちょっとキュッとなっている感じがしていて、安全面ですとか、やっぱり課題がそこにあるのかなというところ。もう少しアート、芸術のところ、先ほどのつながりじゃないですけど、人と人が関わるような場とか、そういうところでアイデアが結構生まれると思うので、そういう場ができれば、それこそ公園にもつながりますし、そういういろんな商業につながっていくということを相対的に考えて、安全面と、何かそういう未来に

なっていたら、もうちょっと出やすいのになというのはすごくありますね。

市長：ありがとうございます。車の渋滞だけでなく、人の渋滞、確かにそれはそうかもしれません。

アートセンターのところのすてきな空間から、ちょっと駅に入ってくると急に歩道も狭いというふうなことがあるので、そこはすごい課題ですね。車も、そして人もということですね。

ほかにありますか。

はい、岩田さん。

岩田さん：私も北側に住んでいると思うんですよね。南側は昔からしっかりと区画整備されて、きれいな形で、特にデッキなんか2階構造になっていて、行きやすい、歩きやすい、そこにいて気持ちがいいとあるんですけど、北側は全くそれがされていないんですね。北と南側が、何というか、まちとして分断されている。そこをうまくつなげるような、今回、地下鉄も延伸されれば人も相当増えますので、北側をしっかりともう1回整備し直すような形で計画していただきたいなと思いますね。

市長：ありがとうございます。

どうでしょう。廣瀬さん。

廣瀬さん：私も北側に住んでいて、よく北口のほうの坂を登って塾とかに行くんですけど、そのときに駅から降りたときに左に抜ける道があって、その道が家からは近道なんですけど、街灯が少ないというのと、人通りが少ないというのがあって、親にあまり夜は歩かないでと言われていて。そこを行くと時短にもなるし、こども食堂の場所とかもありますし、便利な道なので、その整備とか。駅から近いのに、何か急に遠くないみたいな、閉鎖みたいな空間になっているので、まちの雰囲気じゃないですけど、もうちょっと明るくしたらいいんじゃないかなと思います。

市長：ありがとうございます。北側に住んでいる方。何かご意見はありますか。

上井さん：今、お話しいただいたように、北側で薄暗かったり、塾の帰り道に帰るのがちょっと怖いという気持ちがあって。やっぱりまちに住んでいると、交通整備とか、そういう課題がたくさん出てくと思うんです。そういう課題を、住んでいると、あ、知っている人がいると感じたり、友達と会うこともあと思うんですけど、会ったことないという人とか、知っていないという人でも何か気軽に話していくことで、そういう課題に対しても、こうしたらいいんじゃないかなという意見交流が自然にできるようになるんじゃないかなと思って。自然に意見交流ができることで、よりよくまちを活性化させたり、もっと多様で様々な視点から物事を考えていけるようになるので、もっとこの麻生区をよりよい場所にしていけるんじゃないかなと思いました。

市長：将来、市長ですね、もう。

岩田さん：今でもアドバイザーにしたらどうですか。

市長：びっくりした。岩倉さん、ちょっとコメントをいただいてもいいですか。受け止められないぐらいすごいな。

岩倉さん：今、ちょうど南と北の、特に北の話があったんですけど、マルシェを南側でやっていますけれども、実は、おとし、40周年のときから、あさお区民まつりと一緒に南北つないでという形でやり始めて、今年の区民まつりとマルシェのときは本当にすごい人出でして、今まで見たこともない人の密度でということで、本当にいい形に少しずつつながっていて、そうすると、やっぱり使い勝手が悪いようなところが、何かさらに目立ってきていろんな話が出てくるんじゃないのかなと。

今日、小島さんたちと一緒に、うちの社員も変装じゃないですけど、仮装してやるんですけども、向こうの檜山公園のところのフットサル場のところにちょっと広場がある。そこに集まっていただいて、それで南口デッキから北側へ行って、北側の紅葉の部分歩いて、そして最後に、今HUBHUBという、小さなサウナの施設ができていますが、その周りにちょっと広場があるので、そこへ集まっていただいて、抽せん会をやったりするんですけども、何か、ちょっとそういう空き地、空いた場所だとかがあるだけで、まちの使い勝手がすごくよくなるというのが分かったのと、夏には、そこで納涼祭みたいなことをやっております。天気が悪かったんですけど、すごい人が集まっていただいたということなので、そういう基盤整備の部分も含めて、人が集い、つながる場所は、本当にこれからもっと駅の北側にできていくといいなと思います。

市長：やっぱり印象とすれば、私もそう思っていますけど、何かイベントをやると、デッキ、南口でワークとマルシェをやるというか、イベントごとは南口という感じで、岩田さんからお話があったように、ちょっと北口のほうと、南と北の分断があるなというご示唆がありましたよね。

どうだろう。大学生から見てまちの風景、どんなふうに見えていますか？

富長さん：北口というお話もあったかと思うんですけど、北口は、もともとトウェンティワンホールさんだったりとか、区役所もあったりとか、もともとある場所とかが多いなというところで、あさお区民まつりとか、あと、2年前になるんですけども、まちのひろば祭りというものをやらせていただいて、スペースとかもかなりあるのかなと思っていて、活動はイベントとか、何やるにしてもやりやすいのかなと。一方で、僕も妹尾さんと同じで、僕は再来年になるんですけども、川崎市の小学校の教員に。来年、片平小学校で教育実習をさせていただくんですけども、小学生とか、あと僕は白鳥中学校の出身で、中高生とか勉強とか、何か少し話す場所とか、そういう何かちょっとした集まる場所というのがあると、僕ら学生の視点だとすごくありがたいなというところで、やっぱり勉強とか、なかなかカフェとかは中高生のときだと、ちょっとお高いなと思ったりすることもあるので。図書館とかもともと勉強できるスペースもあるんですけども、静かにできる環境でとてもいいんですけども、なかなか話しながらちょっと勉強とかはできなかったりとか。

市長：要は町なかのちょっと一息スポットみたいな感じ。

富長さん：そうですね、はい。

市長：それは、イメージは屋外。

富長さん：屋内だと少しありがたいかなというところですね。

市長：屋外でもいい。

富長さん：屋外でも、はい。

市長：ちょっと座ってお茶を飲んだり、会話したりというような、そういうイメージですかね。

富長さん：そうですね。ただ、僕、北側で、こども食堂とかも、先ほどお話があったと思うんですが、北口のほうのプレップスクールというところが市民館のちょっと裏にあるんですけども、そこで毎月こども食堂をやらせていただいている、子ども世代とか中高生の居場所となるような場所も少しずつつくっているんですけども、中高生とか小学生とかがちょっと一息つけるような場所があるとさらにいいのかなと。

市長：俵さん、何かありますか。

俵さん：結構、北口はどちらかというと、私の中で穴場だと思っています。

市長：穴場ですか。どういう意味で。

俵さん：南のほうは栄えている分、私たちだとちょっと行きづらい、手出しづらい値段とか。

市長：値段が手出しづらい。

俵さん：何か北口だと静かだし、この間、私たち高校生が卒業して大学に上がるからと、小学校時代の子たちとプチ同窓会を開いたんですけど、その後に、じゃあ、どこ行くみたいな。その後、グループになって散らばるとなったときに、北なら空いているんじゃないと感じになって、みんな行くので、そういうところに何かスペースとかがあったり、勉強する場所とかも探したりするんですけど、麻生総合高校が今回なくなっちゃうということで、そういうところのほうにもあったらいいな。

市長：なるほど。

小島さん、商店会としては、南と北、両方にあるという感じですよ。どういうふうに捉えたら。

小島さん：新百合ヶ丘商店会というのは、よくあるアーケードがあって、そのアーケードの固まりの商店会というのではありませんで、駅を中心にして南回り、北回りという展開になっていて、その辺で皆さんの個人店に入っています。

特に、今、北口の話が盛り上がっていますが、我々も北口はちょっと課題だと思っています、北口のお店の方々も南口ばかりいろいろやって、何か北口でもやれよみたいな話が多いんですよ。お店の人も。過去には、アートセンターの前で何年か続けて、北口マルシェというのを商店会主催でやったことがあります。これは有名なお菓子屋さんがおりますので、かなりいろいろな人が集まっていたにぎわったんですが、そういうことでいろいろ関わっていきいたいなど。

本日も、実は北口のほうを優先してパレードをします。ペデストリアンデッキは1周するだけで、あとは北口を中心にパレードをしますので、ぜひ。

市長：商店会としては、今、北口推しなんですね。

小島さん：もう北口が熱心に活動してくれる方が多いので。

市長：そうですか。同じく北口の小松崎さん、北口のほうですよ。

小松崎さん：北口は、先ほど来、皆さんからの意見をお聞きしたりしている中で、先ほどの市長さんからもお話があった、公園も駅前よりも少し離れたところに点在している中で、ちょっと連携がなかなかうまくいっていないんじゃないかということもあるし、歩道の安全性の問題も出ましたが、やっぱり北と南で少しまちの雰囲気というか風景も違いますので、やっぱりネットワーク的なものを、もう少し川崎市さんとしては、ハード面では力を入れていただいたほうがいいと思っています。できればウォークアブルなまちづくりの中で、そういった安全・安心で歩行できるような空間をぜひつくっていただきたいし、緑という面では、できれば先ほど局長さんからも大阪の事例がありましたけど、駅前にやっぱり緑の核となるような施設というか、そういった空間ができれば、それを中心に緑のネットワークができますでしょうし、さらに行政施設として区役所さんがいますので、皆さんがやっぱり新百合ヶ丘に南口、北口問わず集まっていたらいいような、そういった空間をつくるという意味では、行政さんの図書館とか区役所とか、そういったものをもう少し見直しをしていただければ、そこに皆さんが集うようなものができるんじゃないかと思います。ぜひ、そんなところにハードの面では、目を向けていただければというふうに、個人的には感じております。

市長：ありがとうございます。

鈴木さん、いかがですか。北口の目の前という。

鈴木さん：よく言われるのは、北口のまちの発展を阻害していると、我が家が。そういうふうには言われることはありますけど、先ほど来、渋滞の問題とか、それから北口のロータリーが狭い、国道が狭くて危険だとか、そういったものが持つ課題がものすごく多いのは分かっていますし、今は駅前に駐車場、一応経営はしていますが、あのままでいいと思っているわけではなくて、今後、どういう形で北口の魅力づけに関わっていけばいいかなと、いろいろ考えることはあります。

北口については、本当に魅力ある商業施設もあまりありませんし、そういう意味では、今後、ちょっとそういうのも含めて検討していきたいなとは思ってはいるんですけど、ただ、なかなか単独でやっていくには、やはり限界がありますので、どうしても隣の区役所、区役所自体も、もう40年以上たっていますので、いずれ建て替えという話が出てくると思いますのでね。

そういう意味で区役所、それと消防署などもそうですけど、だんだん老朽化してきていますので、それに合わせて一帯でいろいろ北口の開発みたいなことを考えていけばいいかなというふうには考えています。ただ、これに関しては、やはり市の方々が積極的に動いていただけない限りは、私もちょっとこれ以上は動けませんので。あくまでも協力する用意はありますので、そういう意味で北口をとにかく魅力あるまちにしていきたいという意志はありますので、そんな形で貢献できればなとは思っております。

岩田さん：ありがとうございます。

市長：ありがとうございます。参加者からも、岩田さんからもありがとうございますが出ました。

もう大分時間が、そろそろ。

どうぞ、妹尾さん。

妹尾さん：私も16歳離れた妹がいます、今6歳なんです、この小さい子が、やっぱり気軽に遊べたり、気軽に話せたり、あとは中学生、高校生のときも新百合ヶ丘を使っていたんですが、作業できたりとか、机があって一緒に考えてグループワークができたりとか、簡単にご飯が、昼食が取れるような場所だったりとか、そういったスペースもあるとうれしいなと個人的には思っています。

市長：はい、ありがとうございます。ちょっと一息スポット的なことですかね。やっぱり、そうですね、若い人たちもそうなんだ。多分、年配の人たちもそういうのを求めているんじゃないかなという気がしますね。

どこに行っても言われるのは、ベンチを置いてくれというのは、結構ニーズが高いんですよ。大分高齢化してくると、バスを待つのもベンチが欲しい。バスだけでなく町なかにちょっと座るところが欲しいというふうなのは、すごく要望が多いですね。

区長、どういうふうに感じておられますか。スポット的な話。

区長：スポット的、そうですね。私もちょっとマルシェに行ったときに、おなかですいたなと思ってキッチンカーでホットドッグとビールを買って、じゃあ、どこかで座って食べようと思ったときに、歩き回ってもないんですよね、座れるところが。外で買ったものなのでお店に持ち込むわけにもいかないし、どうしようかなと思って、りそな銀行の柵の出っ張ったところにお尻を引っかけて、そこでこそそそ食べていたみたいなのがあって、やっぱりペデストリアンデッキで、いろいろ交通安全運動のグッズを配ったりしていても、皆さん、通り過ぎていく、駅に吸い取られていくみたいな感じで、だから買物に行く人とか、何かしらの用事がないと来ないのかなという気がして。

先ほどお話を伺っていて、新百合ヶ丘に行ってみようみたいなのは、そういう一息スポットだったりとか、グループワークができるフリースペースだったりとか、何かそういうところをつくっていく必要があるのかな。お母さん方もやっぱり、ちょっと休んでおしゃべりしたいといったときに、そこでカフェに入るといってお金もかかりますし。ちょっと憩える場というのが、なかなか南口もそうですし、北口もちょっと少ないので、そこは本当に自分自身も課題として、新百合ヶ丘利用者としては感じております。

市長：なるほど。植村さん、発言していなかったね。すみません。

植村さんも、そういうスポットがあったらうれしいですか。

植村さん：やっぱり何か一息スポットがあると、僕たち学生にとっても遊んでいるというか、新百合に来たときにも、ずっと歩いていて疲れたりとかしたときに、座って何かしゃべり合えるということもできるし、あとは学生だけにかかわらず、さっき言っていた子育て世代の方も年配の方も、一息スポットがあると座って何かそういう話することができたりとか、そういう地域のつながりもスポットがあったら感じられるのかなと。

市長：町なか、何ていう名前がいいですか。

植村さん：やっぱり何かユーモアがあったほうが。

市長：ごめん、変な振りしてしまいまして、すみませんでした。

考えておいてもらっていいですかね。

岩田さん：若い人が考えたほうがいい。

市長：そうですね。いや、本当に大分時間がもう来てしまいましたので、最後にここは言うておこうという方、いらっしゃいましたら。大丈夫ですか。

岩倉さん、どうぞ。

岩倉さん：川崎市の市制100周年の最後、麻生区として最後に近いイベントになると思うんですけど、2月1日と2日、市民館と区役所、それからトウェンティワンホールを貸し切って、北口をどうやって使い倒すのかというのを、今、コンソーシアムと麻生区さんと一生懸命やっているんですね。SDCさんも一緒にやる、区役所をガーンと使っていただけるといいんじゃないかと思っているので、ぜひこれからちょっと企画をさせていただいて、使い倒して、北口をここまで使えるぞというのと、やっぱりここはということを改めて皆さんで共有できて、これからのまちづくりにつなげられたらいいかなと思っています。

市長：素晴らしいご発言をありがとうございます。使い倒すは最高な言葉ですね。意外と、例えば、公園でこんなことはできないんでしょうとか、道路はこれをやっちゃ駄目なんだよねとかという、結構思い込みの部分があるんですよね。意外とそんなこともできるよねとかと、宮崎さん、ちょっと局長、いいですか。

そういう何かまちの既存の、例えば道路だとか、空間だとかと、公園だとかという、そういう活用の可能性というふうなものを、今、一生懸命やってくれていると思うんですけど。

局長：そうですね、やっぱり今、いろいろ新しい事例を見ていくということと、あと、私、忘れられないのが、実は偶然、1996年、平成8年に市役所に入って、その年、新百合ヶ丘担当だったんです。ほぼ週2回、新百合ヶ丘に通って、ちょうど両商業施設の図面ができてきて、景観のコントロールをすると。その景観のルールは地域の協議会が決めていて、協議会の人といろいろやっていた。そこで忘れないのが、協議会の方が、いや、小田急線新宿からずっと見てご覧なさいと。駅前広場をつくったところは新百合ヶ丘が最初でしょうということで、要は地域の方たちは本当に協力してまちをつくってきた。ただし、いや、ここまで車社会になるとは予測できなかったと。なるほどなど。なので、これを解決するのは、次の世代の人たちをお願いしたい、みんなでやってほしいということを言われたのは、私は忘れないですね。

そういった意味で言うと、今日、目からうろこというよりも、ほとんど目から涙みたいな話がありましたけど、やっぱり第1部、本当に核心は第1部のつながり、ソフトのつながりというのを最大限生かすハードのまちづくりでつなげていって、そこにさらにソフトのつながりを加速していくという、やっぱりそうやって価値を生み出していくということを、もう一度皆さんと一緒にチャレンジしていくべきだというふうに感じてございます。ちょっと総論になりましたけど。

市長：何かもう締まったかのようないい発言だったけど、最初の図面を見ていたのは何年のときですか。1900……。

局長：96年です。

市長：９６年。

局長：なので、まだデッキを見ると本当にスポーツセンターがぽこんとあるだけというぐらいの。

岩田さん：エルミロードしかなかったとき。

局長：そうですね。

市長：今言われたように、その当時は、これほど車社会が来るとは思わなかったというような、ある意味、まちづくりの設計がされていたわけですが、今、皆さんにご指摘いただいたように、車の渋滞というのがあります。それから人の渋滞というのがありますし、緑が駅周辺にはあるんだけど、言われたように駅真ん中だとか、中心部から緑が繋がっていないというのがありますし、そして、区役所、消防署、これも老朽化している。ありがたいことに鈴木さんはまちづくりに協力してくださるという意思も示していただいたということというのは、このまちの、次のもう１回、大きなまちづくりをしていく、特に北側、北口というのを大きく変えていく最大の時機というか、チャンスが来たというふうに思っています。

そういった意味では、鈴木さんのところもそうですし、私たちの区役所、消防署、こういったところを１つの一体的にどう考えるかという時期になると思います。そうじゃないと道路は大きく取れない。今、対症療法的にやっていますが、それだけでは多分全く進まないということもありますし、魅力的な商業、それから言われたような魅力的な何かスポットというような、そういう一息スポットみたいなものに人が集い、憩う場所、空間というものをつくり出すためには、それは、かなり大仕掛けにいかなくちゃいけないということになりますから、その議論を、今日はある意味始まりということでありますから、ぜひ、さらに議論を深めて、深度化させて、いいまちづくりをしていきたいなと思います。

次の世代という意味では、ぜひ若い人たちの意見もしっかり取り入れていきたいなと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

今日は皆さん、お忙しい中、貴重な時間をいただきまして、本当にありがとうございます。これからがスタートだと思います。これからもどうぞよろしくお願いします。どうもありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして第６８回車座集会を終了いたします。本日は、お忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございました。